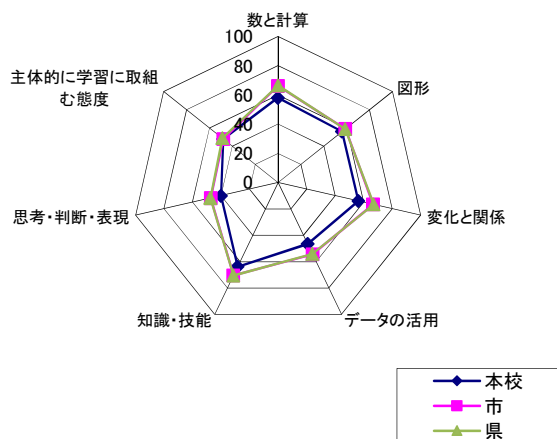


宇都宮市立宝木小学校 第5学年【算数】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	58.1	66.1	66.4
	図形	56.0	58.9	58.8
	変化と関係	56.3	66.6	67.0
	データの活用	46.6	54.4	54.2
観点	知識・技能	63.8	70.4	70.6
	思考・判断・表現	40.1	47.2	47.5
	主体的に学習に取り組む態度	47.9	47.8	48.8



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>平均正答率は、県の平均と比べ低い。</p> <p>○整数、仮分数、帯分数、真分数の大小比較をする問題の正答率は49.0%で、県の正答率を6.1ポイント上回った。</p> <p>●四則や()の混じった式の計算順序に関する問題の正答率は47.9%で、県の正答率より20.2ポイント下回った。</p>	<p>・四則や()の混じった式の計算順序についても一度確認をし、朝の学習や宿題などで練習できるように取り組んでいく。</p>
図形	<p>平均正答率は、県の平均と比べ低い。</p> <p>○平行四辺形を作図する問題の正答率は69.8%で、県の正答率を9.5ポイント上回った。</p> <p>●360°より小さい角の大きさを求める問題の正答率は63.5%で、県の正答率より11.2ポイント下回った。</p>	<p>・角の大きさの求め方を復習し、朝の学習などで色々な問題に取り組むことで定着を図っていく。</p>
変化と関係	<p>平均正答率は、県の平均と比べ低い。</p> <p>○伴って変わる2つの数量の一方の値から、もう一方の値を求める問題は、正答率が83.3%と高かった。</p> <p>●2つの数量の関係を、もとの大きさの何倍になったかを考えて比べる問題の正答率は45.8%で、県の正答率より16.5ポイント下回った。</p>	<p>・朝の学習などで4年生までの復習を取り入れ、2つの数量関係について理解を深めるとともに定着を図っていく。</p>
データの活用	<p>平均正答率は、県の平均と比べ低い。</p> <p>○二次元表の値を読み取る問題の正答率は84.4%で、県の正答率を5.8ポイント上回った。</p> <p>●2つの折れ線グラフから必要なことを読み取る問題の正答率は46.9%で、県の正答率より18.5ポイント下回った。</p>	<p>・他教科や学校生活などの様々な場面で、表やグラフを読んだり読み取ったことから考えられることを文にまとめたりする活動を取り入れ、資料を分析する力を育てていく。また、新聞づくりなどで調べたことをグラフに表現する機会も設けて読み取るだけでなく活用できるようにしていく。</p>